

平成 25 年度（一財）救急振興財団調査研究助成事業

休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護
支援体制・生活状況・家族背景に関する調査研究

島根県高齢者救急検討会

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL & FAX 0853-20-2402

代表者 門田 勝彦 島根大学医学部附属病院 救命救急センター

【本研究の目的とその背景】

平成 22 年社会保障審議会介護保険部会において、医療ニーズの高い要介護者が安心して在宅生活を送ることが出来るよう、緊急時に迅速に対応できる仕組みを検討する必要性について提言がされている。その一方で休日・夜間に救急外来を頻回に受診・搬送される高齢者が多く存在している。その一部には訪問看護を含め適切な介護・医療サービスが付与されていない可能性や老老介護や独居などの生活状況も関わっている可能性がある。本研究は、適切な介護・医療サービスが付与されることにより未然に防ぎ得る高齢救急外来受診患者の実態を調査解明することが目的である。

【本研究の対象と方法】

対象

研究期間内に島根大学医学部救命救急センターを受診・搬送された高齢患者（65 歳以上）およびその家族

方法

- ① 上記対象に御同意をいただいた上で、傷病発症前のADL、認知症の有無・重症度、傷病発症前の要介護・要支援認定の有無、実際の介護・医療サービスの介入の形態、かかりつけ医の有無、家族構成、生活形態、主介護者が誰であるかについてアンケートを行う。
- ② 受診した高齢患者が軽症であった場合で、適切な介護・医療サービスが付与されていない場合および介護・医療サービスの変更により今後の医療ニーズの改善が期待される場合は、医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに連絡を行い、適切な介護サービスに変更していただく。
- ③ 受診した高齢患者に入院加療が必要な場合は、入院日より退院支援を開始し、医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに情報伝達をした上で在宅復帰への介護サービスの計画を立案する。

研究期間内に①－③を実施し、そのデータを解析・検討し、どの社会的なファクターが適切な介護・医療サービスにより改善できうるか、介入により受診・搬送を抑制できたかを解析・検証する。

当研究の実施に関して島根大学医学部附属病院の倫理委員会に、申請を行い受理された。その後、本研究に御参加いただくことを同意いただいた当院救命救急センターを受診・搬送された高齢患者（65 歳以上）およびその家族に対し

、アンケート用紙に記入いただく形で、調査研究を開始した。具体的には、入院された患者に関しては、救命救急センター病棟に入院後に、患者本人もしくはその家族に記入いただく形とし、救命救急センターを受診・搬送されるも軽症と診断され、帰宅となった患者（救命センター外来受診後、帰宅した患者）に関しては、帰宅前に郵送の形で、アンケート用紙を当院救命センターに送付いただく形とした。

【アンケート集計数】 62 名

（救急外来受診後、帰宅した患者数：35 名、救急外来受診後、入院した患者数：27 名）

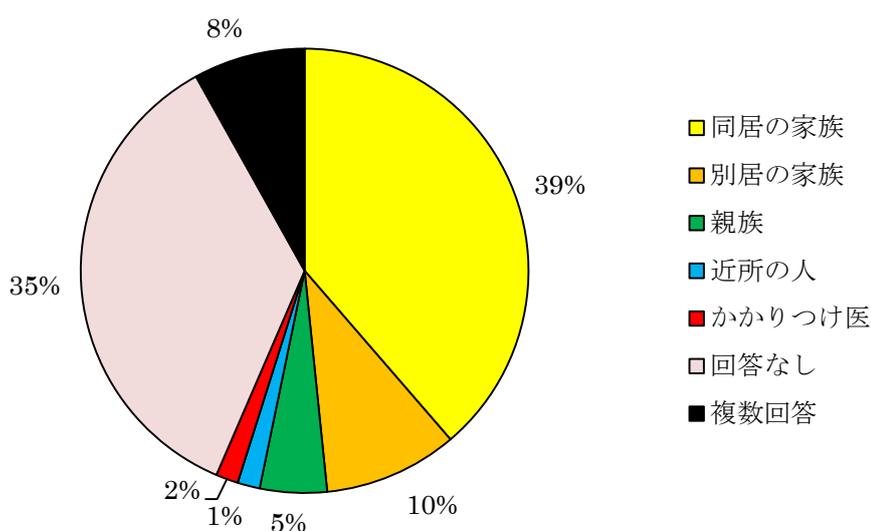
【男女比（男：女）】 37：25

【平均年齢】：72.1±1.3 歳

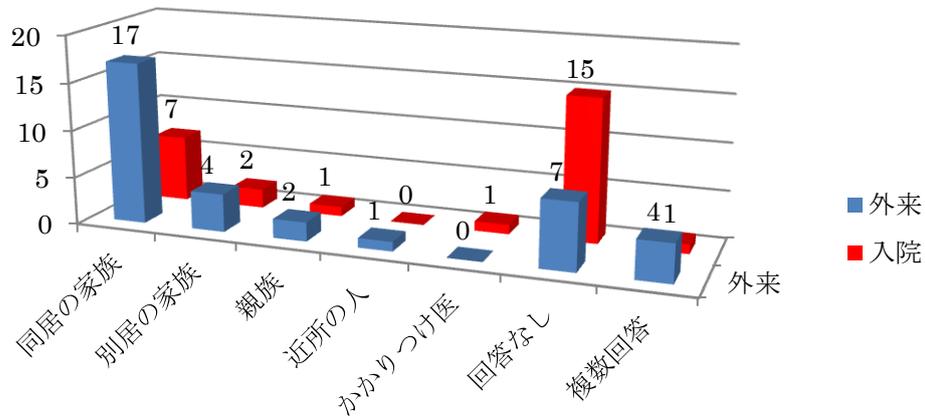
<アンケート結果>

救急外来受診への相談方法について

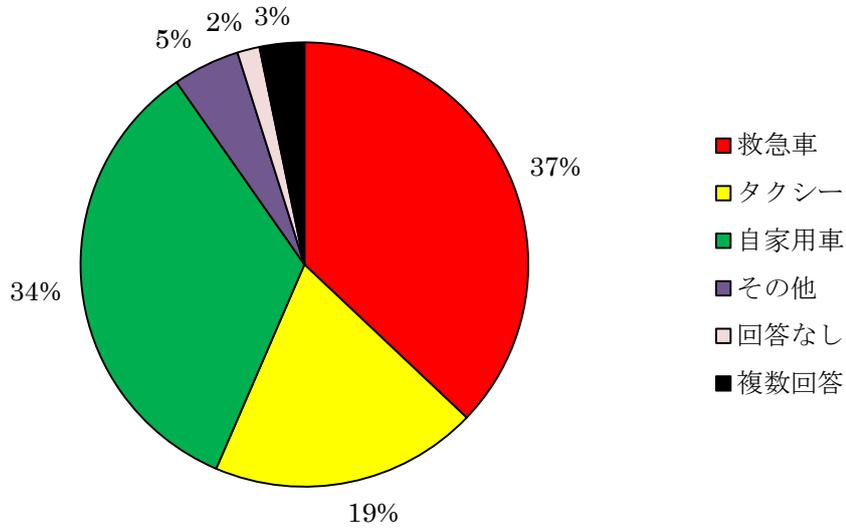
1	救急外来には、相談して来られましたか。	はい ・ いいえ
2	はいの方のみお答えください。 最初に相談した人はどなたですか。	同居の家族・別居の家族 親族・近所の人・知人・訪問看護 かかりつけ医・ケアマネジャー・ その他（ ）

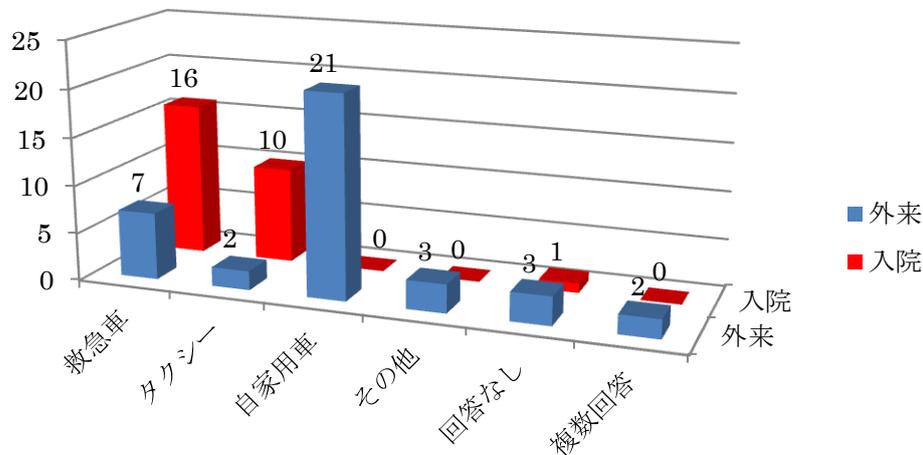


救急外来受診に際し、家族・親族に相談した方が半数以上であった。



3	どのような方法で来られましたか。	救急車・タクシー・自家用車・その他（ ）
---	------------------	----------------------

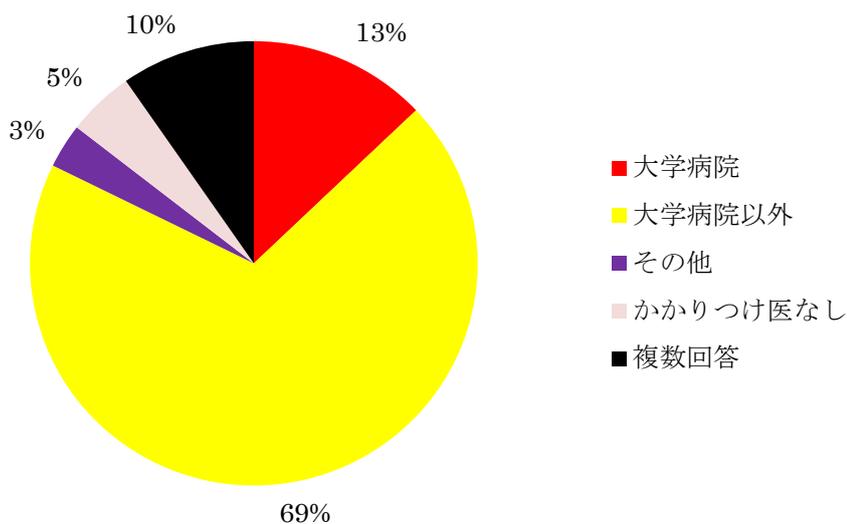


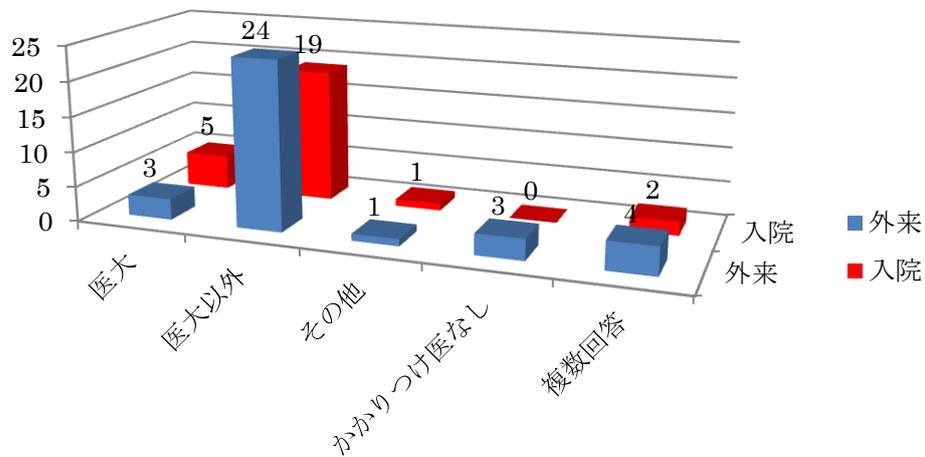


救急外来受診され、入院となった高齢患者の96%が救急車もしくはタクシーでの受診であった。また救急車で搬送され、入院した患者の50%は、介護認定を受けていた。

医療支援体制について

1	かかりつけ医はおられますか。	はい ・ いいえ
2	かかりつけ医はどなたですか。	医大・ 医大以外 ()

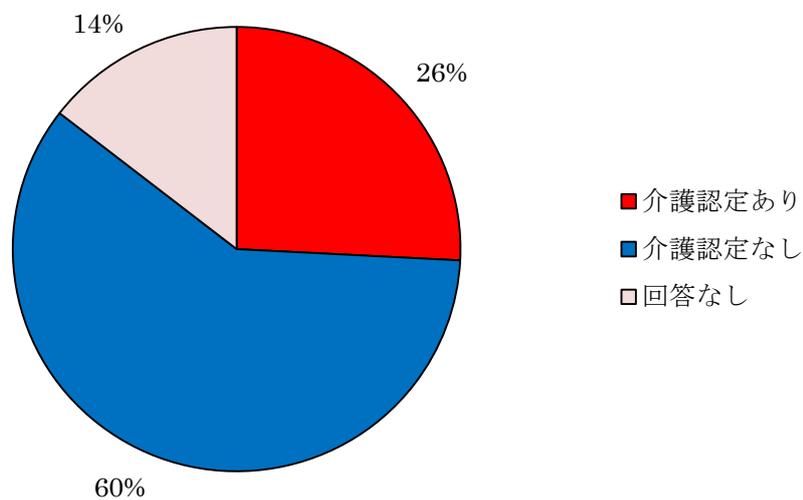


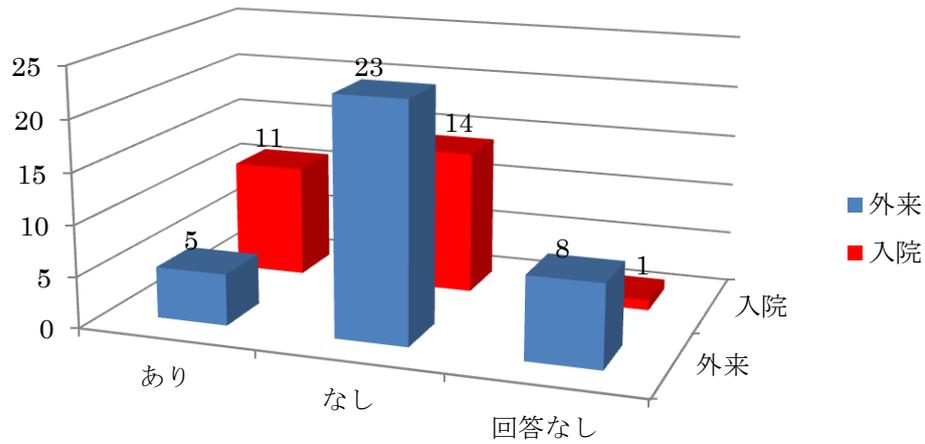


ほとんどが、大学病院以外の医療機関の“かかりつけ医”をもっていた。救急外来から入院した高齢患者が、“かかりつけ医”をもっていないケースは少なかった。

介護支援体制について

1	介護保険の認定を受けていますか。	あり ・ なし ・ 申請中
---	------------------	---------------

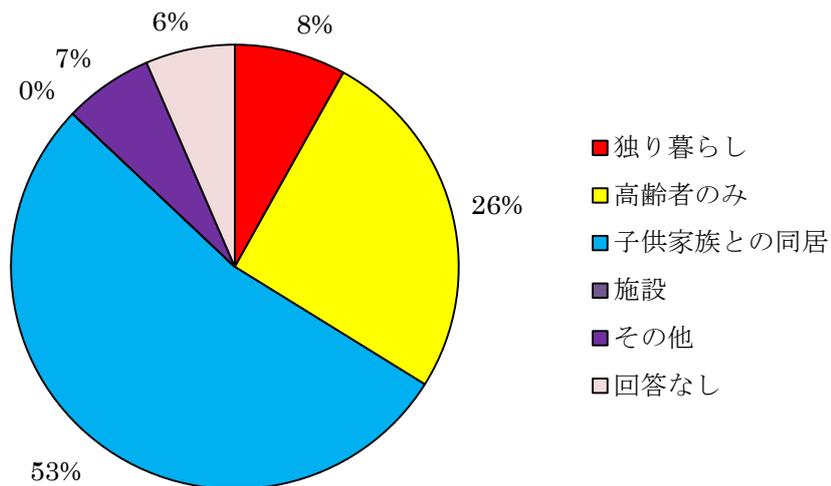


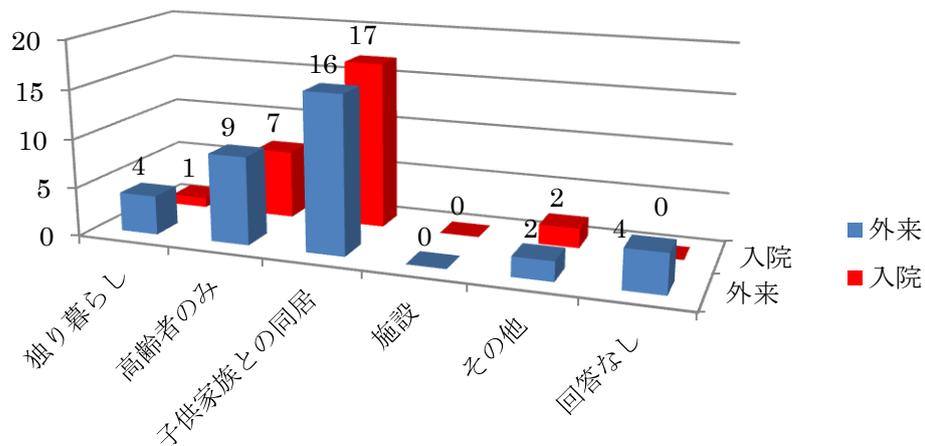


救急外来受診した高齢患者の半数以上が介護保険認定を受けておらず、これは、救急外来を受診し、その後帰宅した患者に多かった。

社会生活に関して

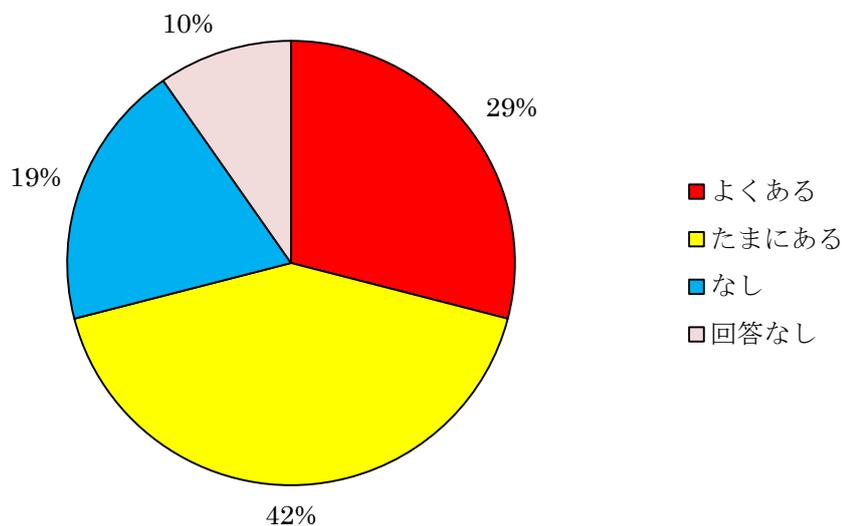
1	家族構成をお聞かせください。	1、一人暮らし 2、高齢者のみ 3、子供家族と同居 4、施設 5、その他（ ）
---	----------------	---





アンケートの結果からは、夜間・休日に救急外来を受診した高齢患者のうち、独居は、8%と比較的少なく、53%が子供家族と同居生活をしていた。

3	日中、一人になることがありますか。	1、よくある 2、たまにある 3、ない
---	-------------------	------------------------



別記様式第9号（別記様式第1号5関係，別記様式第2号16関係）

研究協力依頼の説明書

島根大学医学部附属病院救命救急センター

研究責任者 助教 門田 勝彦

教授(又は所属の長) 教授 仁科 雅良

研究課題名

〔休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景に関する調査研究〕

この説明書は、上記課題に関する研究にご協力いただくための説明文書であり、平成 年 月 日に島根大学医学部医の倫理委員会で承認されたものです（第 号）。

殿

【研究の目的】

この研究は夜間もしくは休日に当院救命救急センターを受診・救急搬送された65歳以上の患者さんを対象として、受診理由、傷病発症前のADL、認知症の有無・重症度、傷病発症前の要介護・要支援認定の有無、実際の介護・医療サービスの介入の形態、かかりつけ医の有無、家族構成、生活形態、主介護者がどなたであるかについてインタビューをさせていただき、適切な介護・医療サービスが付与されているか、改善点がないかについて調査させていただきます。もし、改善点があると考えられる場合は、当院の医療ソーシャルワーカーより担当ケアマネージャーに連絡を行い、早期に介護・医療サービスの改善を求めていきます。

それらの情報を集積・解析・検討し、どの社会的な要因が適切な介護・医療サービスにより改善できうるか、実際の介入によりその後の患者さんの救急外来の受診・搬送を予防できたかを解析・検証することが目的です。

【研究の方法】

署名にて御同意をいただいた上で、症状の発症から受診までの時間、緊急度（トリアージレベル）、傷病発症前の ADL、認知症の有無・重症度、傷病発症前の要介護・要支援認定の有無、実際の介護・医療サービスの介入の形態、かかりつけ医の有無、家族構成、生活形態、主介護者が誰であるかについてインタビューを行い、その内容を保存させていただきます。

研究期間内に上記を実施し、そのデータを解析・検討いたします。

【予想される効果】

この研究にご協力いただくことで、そのデータを解析・検討し、どの社会的な要因が適切な介護・医療サービスにより改善できうるかを明らかにできます。さらに実際の介入によりその後の高齢者の救急外来の受診・搬送件数を減らすことができ、より軽症の状況で速やかに適切な医療機関を受診し、御加療いただくことができる可能性があります。

【安全性の確保、不測の事態への対処の方法】

この研究は調査研究であり、特別な処置・薬剤などは使用いたしません。そのため本研究に御同意いただいた患者さんおよび、その御家族への身体的な危険性はありません。

当救命救急センターに受診された高齢の患者さんの症状が軽症であり、適切な介護・医療サービスが付与されていない場合および介護・医療サービスの変更により今後の介護・医療の改善が期待される場合は、当院の医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに連絡を行い、適切な介護サービスに変更していただくようにいたします。また受診された高齢の患者さんに入院加療が必要な場合は、入院日より退院支援を開始し、医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに情報伝達をした上で在宅復帰への介護サービスの計画を立案していきます。

なお、救急搬送された場合は、救急搬送を担当した救急救命士(出雲消防署など)に情報共有を行います。

【個人情報の保護に関すること】

本研究には性別や年齢のほか、要介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景などに関する情報が必要ですが、患者さんのお名前、住所、受診 ID など個人を特定できる情報は使用しませんので、個人情報は保護されます。

【費用負担】

本研究は、通常治療費以外の患者さんのご負担はありません。また本研究に御同意いただいた患者さんに対して特別な謝礼をお渡しすることはありません。

【同意の撤回について】

上にご説明したことをご理解いただいたうえで、研究へご協力いただける場合には、別紙同意書にご署名願います。たとえご協力いただけなくても、何ら不利益になりませんので、患者さんご自身の自由な判断でお決め下さい。また、一度同意いただいた後でも、撤回することは可能です。その場合は、別紙撤回用文書に署名し、主治医、研究責任者もし

くは研究分担者までお渡し下さい。

【研究成果の公表】

研究の効果は学会、学術雑誌などで報告しますが、本研究の対象となられた患者さんのお名前、住所など個人を特定できるデータは、決して外部に公表することはありません。

【連絡先等】

この研究についてわからないことがあれば、いつでも研究責任者 救命救急センター 門田 勝彦（連絡先：電話 0853-20-2420 あるいは 070-6690-5232）から追加説明を受けることができます。

説明日： 平成 年 月 日

説明者 _____ [自署]

電話番号： 0853 - 20 - 2420

別記様式第10号（別記様式第1号5関係，別記様式第2号16関係）

同意書

島根大学医学部長 殿

私は、「休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景に関する調査研究」の実施計画について、平成25年 月 日に島根大学医学部医の倫理委員会で承認された説明書により、事前に十分な説明を受けました。さらに、()から、平成 年 月 日に、再度、説明書に基づいて次の事項について十分な説明を受け理解しましたので、研究に協力することに同意いたします。

- 1 研究の目的
- 2 研究の方法
- 3 予想される効果
- 4 安全性の確保、不測の事態への対処の方法
- 5 個人情報の保護に関すること
- 6 費用負担
- 7 同意の撤回について
- 8 研究成果の公表
- 9 連絡先：研究責任者 救命救急センター助教 門田勝彦（電話 0853-20-2422 あるいは070-6690-5232）

平成 年 月 日

同意者(本人) _____ [自署]
住 所 _____

* ご本人が署名できないときは、代諾者の方が以下にご署名ください。

代諾者(続柄：) _____ [自署]
住 所 _____

(同意書を提出した後、同意を撤回される場合は、下記に署名の上、ご提出ください。)

島根大学医学部長 殿

私は、「休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景に関する調査研究」の研究協力に、平成 年 月 日に同意しましたが、これを撤回します。

平成 年 月 日

本 人 _____ [自署]
住 所 _____

* ご本人が署名できないときは、代諾者の方が以下にご署名ください。

代諾者(続柄：) _____ [自署]
住 所 _____

救急外来を受診された 65 歳以上の皆さまへ

調査研究へのご協力をお願い

日頃より、島根大学医学部附属病院の運営につきまして、ご理解、ご支援いただき厚くお礼申し上げます。

さて、地方での救急医療・高齢者医療の問題が取り上げられております。当院救命救急センターでは、地域住民の皆様にとって、より良い救急医療や高齢者医療のあり方について考えた結果、休日、夜間に救急外来を受診する 65 歳以上の方を対象に介護支援体制、生活状況に関する調査研究をさせていただくこととしました。

つきましては誠に恐縮とは存じますが、アンケート調査のご協力をお願い申し上げます。

下記をご理解のうえ、アンケート調査のご協力を何卒よろしくお願いたします。

- 調査のご参加は自由です。回答されなくても不利益になることはありません。
- 個人情報 は 目的外 に 使用 する こと は あり ませ ん。
- アンケート用紙、同意書は、返信用封筒に入れて平成 25 年 12 月 31 日までにポストにご投函ください。
- 調査結果は研究目的以外に使用せず、研究終了後は破棄いたします。
- 調査結果は個人が特定されないように配慮し、研究発表にて公表する予定です。

平成 25 年 8 月

島根大学医学部附属病院

救命救急センター・地域医療連携センター

お問い合わせ先

島根大学医学部附属病院 救命救急センター

電話 0853-20-2422、070-6690-5232

<外来用>

「救急外来を受診する高齢者の調査研究」に関するアンケート調査

問1 救急外来受診への相談方法についておたずねします。

該当するところに○をしてください。

1	救急外来には、相談して来られましたか。	はい ・ いいえ
2	はいの方のみお答えください。 最初に相談した人はどなたですか。	同居の家族・別居の家族 親族・近所の人・知人・訪問看護 かかりつけ医・ケアマネジャー・ その他（ ）
3	どのような方法で来られましたか。	救急車・タクシー・自家用車・ その他（ ）

問2 医療支援体制についておたずねします。

該当するところに○をしてください。

1	かかりつけ医はおられますか。	はい ・ いいえ
2	かかりつけ医はどなたですか。	医大・ 医大以外（ ）
3	過去に医大に受診されたことがありますか。	はい ・ いいえ
4	緊急受診のときは、誰に相談するように 聞いていますか。	かかりつけ医・訪問看護・医大・ その他（ ）
5	認知症の治療をされていますか。	はい ・ いいえ
6	認知症の治療状況についておたずねしま す。	治療中・ 物忘れはあるが治療していない
7	医療的ケアはありますか。	尿道バルン・インシュリン注射 酸素療法・経管栄養・人工肛門 吸引・床ずれ等創処置 (その他)
8	医療的ケアの方法などについて説明を聞か れましたか。	はい ・ いいえ
9	医療的ケアのある方は、説明内容はどんな内容でしたか。 (複数回答) 1、ケアの方法 2、注意点 3、困ったときの対応方法 4、緊急時の対応方法 5、その他（ ）	

問3 介護支援体制についておたずねします。

該当するところに○をしてください。

1	介護保険の認定を受けていますか。	あり ・ なし ・ 申請中
2	認定済の方は、要介護度をお聞かせください。	要支援（ ）・要介護（ ）
3	ケアマネジャーはどなたですか。	事業所名
4	サービスを利用されていますか。	はい ・ いいえ
5	「はい」の方は、利用しているサービスに○をしてください。（複数回答）	1、ヘルパー 2、デイサービス 3、デイケア 4、訪問看護 5、訪問入浴 6、訪問リハビリ 7、ショートステイ 8、福祉用具
6	訪問看護を利用されている方は、事業所名をお聞かせください。	事業所名

問4 社会生活に関しておたずねします。

該当する数字に○をしてください。

1	家族構成をお聞かせください。	1、一人暮らし 2、高齢者のみ 3、子供家族と同居 4、施設 5、その他（ ）
2	一人暮らし、高齢者のみの方は、別居の家族が住んでおられるところはどちらですか。	1、あなたのお住まいの市（町）内 2、島根県内 3、島根県外
3	日中、一人になることがありますか。	1、よくある 2、たまにある 3、ない
4	近所との関わりについて、お聞かせください。	1、よく行き来する 2、会えば話しをする人がいる 3、挨拶程度 4、ほとんど関わることはない
5	日ごろ、誰かとお話をされることがありますか。	1、週3回以上誰かと話す 2、週に1、2回くらい話す 3、月に数回くらい話す 4、ほとんど話さない
6	生活のために必要な外出される頻度についてお聞かせください。	1、週3回以上 2、週1、2回 3、月に数回 4、ほとんど外出しない

7	普段の移動方法は何ですか。	徒歩・押し車・歩行器・車いす・ その他（ ）
8	運転免許をお持ちですか。(2輪免許含む)	はい ・ いいえ ・ 返納済
9	運転頻度について教えてください。	1、毎日 2、週に1、2回 3、月に1回程度
10	あなたの収入は年金のみですか。	1、国民年金 2、厚生年金 3、その他の収入あり

問5 生活機能についておたずねします。

該当する数字に○をしてください。		はい	いいえ
1	バスや電車で1人で外出していますか？	0	1
2	日用品の買い物をしていますか？	0	1
3	預貯金の出し入れをしていますか？	0	1
4	友人の家を訪ねていますか？	0	1
5	家族や友人の相談にのっていますか？	0	1
6	階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか？	0	1
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがれますか？	0	1
8	15分くらい続けて歩いていますか？	0	1
9	この1年間に転んだことがありますか？	0	1
10	転倒に対する不安はありますか？	0	1
11	半年で2～3kg以上の体重減少はありましたか？	0	1
12	半年前に比べて硬いものが食べにくくなりましたか？	0	1
13	お茶や汁物でむせることがありますか？	0	1
14	口の渇きが気になりますか？	0	1
15	週に1度以上は外出していますか？	0	1
16	昨年と比べ外出の回数が減っていますか？	0	1
17	まわりの人から“いつも同じことを聞く”などと言われますか？	0	1
18	自分で電話番号を調べて電話をかけることができますか？	0	1
19	今日が何月何日か分からないことがありますか？	0	1
20	毎日の生活に充実感がないことがありますか？	0	1
21	これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなっていますか？	0	1

22	以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられることがありますか？	0	1
23	自分が役に立つ人間だとは思えないですか？	0	1
24	わけもなく疲れた感じがしますか？	0	1
25	薬は自分で管理していますか？	0	1
26	お金の管理は自分でできていますか？	0	1
27	老人会やお祭りなど地域の行事に参加していますか？	0	1

問6 あなたとあなたの配偶者（妻や夫）や家族、周囲の人との関係についてご質問します。

1	あなたには配偶者（妻または夫）はいらっしゃいますか？ 1、いる 2、いない →（配偶者以外の家族 ・ 友人・近所の人）				
※以下の質問項目で配偶者がおられない場合は家族、周囲の人（友人、近所の人）に置き換えてください。該当する数字に○をしてください。		1 非常にそう思う	2 まあそう思う	3 あまりそうは思わない	4 まったくそうは思わない
2	あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、（配偶者は）助けてくれますか？	1	2	3	4
3	（配偶者と）物事をいろいろよく話し合っ、一緒にとりくんでゆけますか？	1	2	3	4
4	あなたが経済的に困っているときに、（配偶者は）頼りになりますか？	1	2	3	4
5	あなたが寝込んだときに、（配偶者は）身の回りの世話をしてくれますか？	1	2	3	4
6	引っ越しをしなければならなくなったときに（配偶者は）手伝ってくれますか？	1	2	3	4
7	（配偶者は）家事をやったり、手伝ってくれますか？	1	2	3	4
8	（配偶者と）気持ちが通じ合いますか？	1	2	3	4
9	（配偶者は）あなたの喜びを我がことのように喜んでくれますか？	1	2	3	4

10	(配偶者は) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができますか？	1	2	3	4
11	あなたは(配偶者)がいるので孤独ではないと思いますか？	1	2	3	4

ご協力、誠にありがとうございました。

返信用封筒(切手は不要です)にアンケート用紙、同意書を入れて
平成25年12月31日までに投函してください。

<入院用>

「救急外来を受診する高齢者の調査研究」に関するアンケート調査

問1 救急外来受診への相談方法についておたずねします。

該当するところに○をしてください。

1	救急外来には、相談して来られましたか。	はい ・ いいえ
2	はいの方のみお答えください。 最初に相談した人はどなたですか。	同居の家族・別居の家族 親族・近所の人・知人・訪問看護 かかりつけ医・ケアマネジャー・ その他（ ）
3	どのような方法で来られましたか。	救急車・タクシー・自家用車・ その他（ ）

問2 医療支援体制についておたずねします。

該当するところに○をしてください。

1	かかりつけ医はおられますか。	はい ・ いいえ
2	かかりつけ医はどなたですか。	医大・ 医大以外（ ）
3	過去に医大に受診されたことがありますか。	はい ・ いいえ
4	緊急受診のときは、誰に相談するように 聞いていますか。	かかりつけ医・訪問看護・医大・ その他（ ）
5	認知症の治療をされていますか。	はい ・ いいえ
6	認知症の治療状況についておたずねしま す。	治療中・ 物忘れはあるが治療していない
7	医療的ケアはありますか。	尿道バルン・インシュリン注射 酸素療法・経管栄養・人工肛門 吸引・床ずれ等創処置 (その他)
8	医療的ケアの方法などについて説明を聞か れましたか。	はい ・ いいえ
9	医療的ケアのある方は、説明内容はどんな内容でしたか。 (複数回答) 1、ケアの方法 2、注意点 3、困ったときの対応方法 4、緊急時の対応方法 5、その他（ ）	

問3 介護支援体制についておたずねします。

該当するところに○をしてください。

1	介護保険の認定を受けていますか。	あり ・ なし ・ 申請中
2	認定済の方は、要介護度をお聞かせください。	要支援（ ）・要介護（ ）
3	ケアマネジャーはどなたですか。	事業所名
4	サービスを利用されていますか。	はい ・ いいえ
5	「はい」の方は、利用しているサービスに○をしてください。（複数回答）	1、ヘルパー 2、デイサービス 3、デイケア 4、訪問看護 5、訪問入浴 6、訪問リハビリ 7、ショートステイ 8、福祉用具
6	訪問看護を利用されている方は、事業所名をお聞かせください。	事業所名

問4 社会生活に関しておたずねします。

該当する数字に○をしてください。

1	家族構成をお聞かせください。	1、一人暮らし 2、高齢者のみ 3、子供家族と同居 4、施設 5、その他（ ）
2	一人暮らし、高齢者のみの方は、別居の家族が住んでおられるところはどちらですか。	1、あなたのお住まいの市（町）内 2、島根県内 3、島根県外
3	日中、一人になることがありますか。	1、よくある 2、たまにある 3、ない
4	近所との関わりについて、お聞かせください。	1、よく行き来する 2、会えば話しをする人がいる 3、挨拶程度 4、ほとんど関わることはない
5	日ごろ、誰かとお話をされることがありますか。	1、週3回以上誰かと話す 2、週に1、2回くらい話す 3、月に数回くらい話す 4、ほとんど話さない
6	生活のために必要な外出される頻度についてお聞かせください。	1、週3回以上 2、週1、2回 3、月に数回 4、ほとんど外出しない

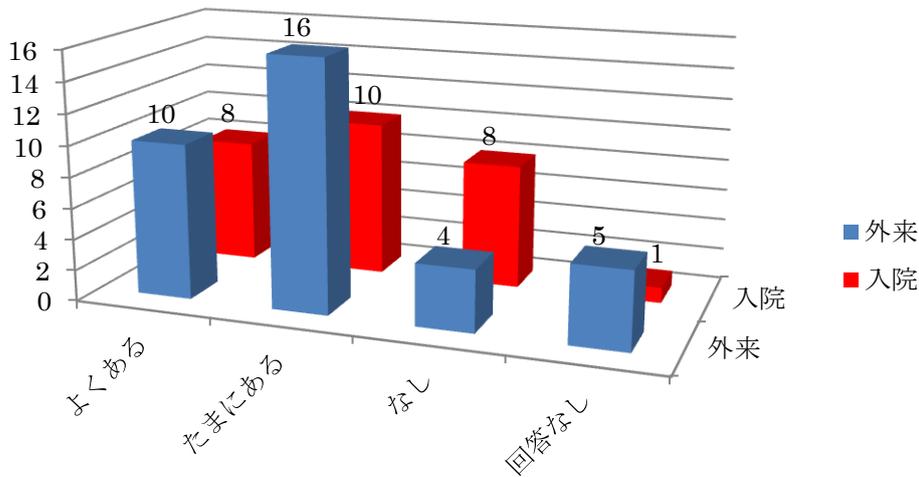
7	普段の移動方法は何ですか。	徒歩・押し車・歩行器・車いす・ その他（ ）
8	運転免許をお持ちですか。（2輪免許含む）	はい ・ いいえ ・ 返納済
9	運転頻度について教えてください。	1、毎日 2、週に1、2回 3、月に1回程度
10	あなたの収入は年金のみですか。	1、国民年金 2、厚生年金 3、その他の収入あり

問5 生活機能についておたずねします。

該当する数字に○をしてください。		はい	いいえ
1	バスや電車で1人で外出していますか？	0	1
2	日用品の買い物をしていますか？	0	1
3	預貯金の出し入れをしていますか？	0	1
4	友人の家を訪ねていますか？	0	1
5	家族や友人の相談にのっていますか？	0	1
6	階段を手すりや壁をつたわずにのぼっていますか？	0	1
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがれますか？	0	1
8	15分くらい続けて歩いていますか？	0	1
9	この1年間に転んだことがありますか？	0	1
10	転倒に対する不安はありますか？	0	1
11	半年で2～3kg以上の体重減少はありましたか？	0	1
12	半年前に比べて硬いものが食べにくくなりましたか？	0	1
13	お茶や汁物でむせることがありますか？	0	1
14	口の渇きが気になりますか？	0	1
15	週に1度以上は外出していますか？	0	1
16	昨年と比べ外出の回数が減っていますか？	0	1
17	まわりの人から“いつも同じことを聞く”などと言われますか？	0	1
18	自分で電話番号を調べて電話をかけることができますか？	0	1
19	今日が何月何日か分からないことがありますか？	0	1
20	毎日の生活に充実感がないことがありますか？	0	1
21	これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなっていますか？	0	1

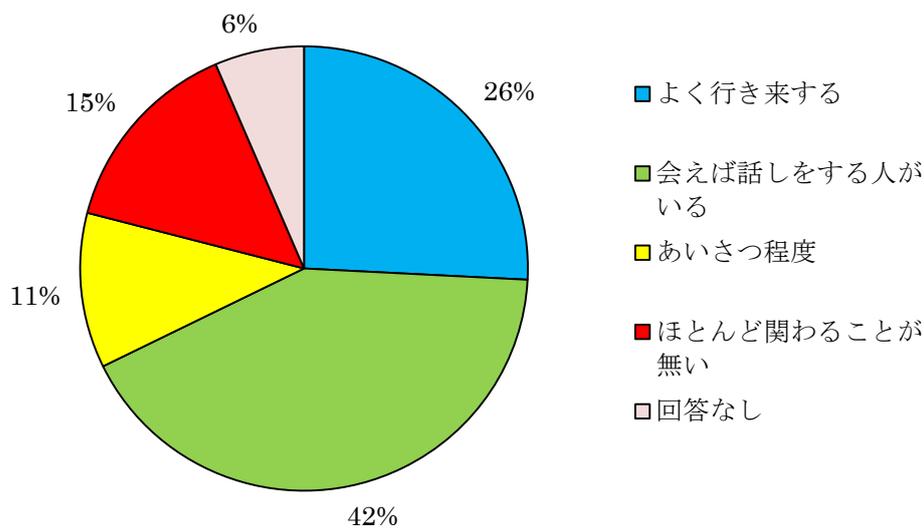
22	以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられることがありますか？	0	1
23	自分が役に立つ人間だとは思えないですか？	0	1
24	わけもなく疲れた感じがしますか？	0	1
25	薬は自分で管理していますか？	0	1
26	お金の管理は自分でできていますか？	0	1
27	老人会やお祭りなど地域の行事に参加していますか？	0	1

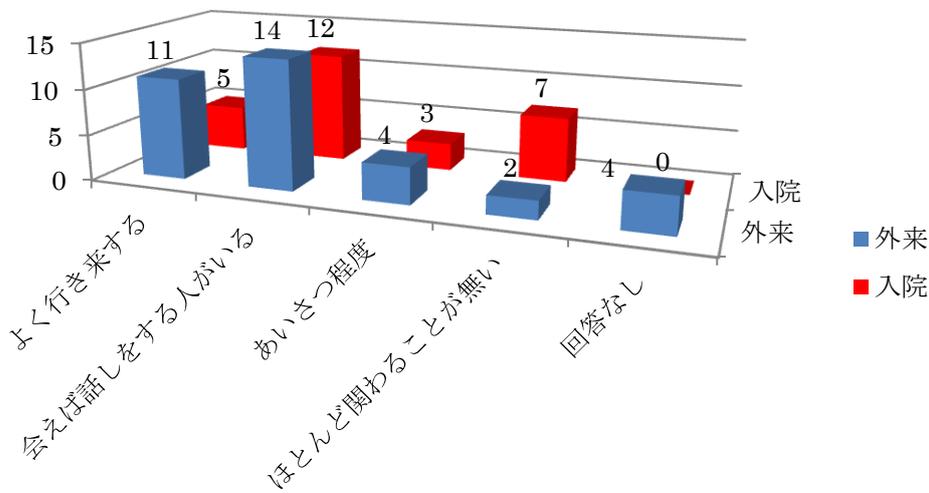
ご協力、誠にありがとうございました。



アンケートの結果から、高齢患者の71%が日中1人になる機会があったが、外来・入院群で有意な差は認められなかった。

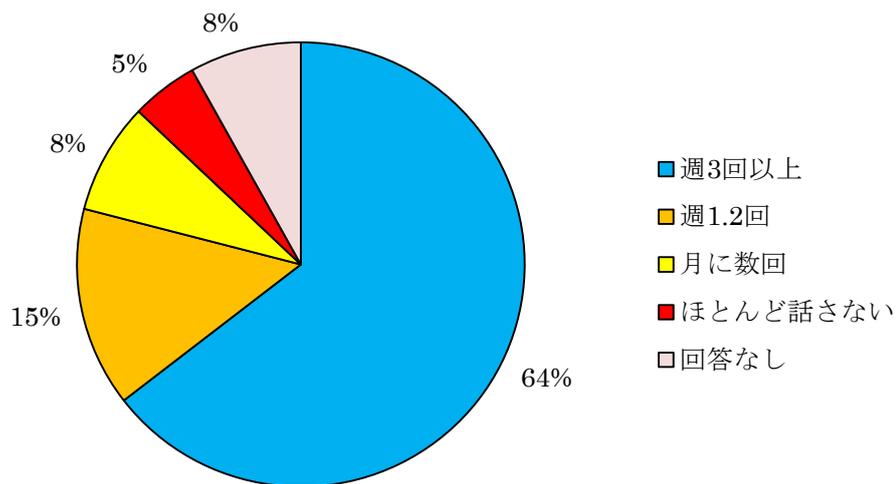
4	近所との関わりについて、お聞かせください。	1、よく行き来する 2、会えば話しをする人がいる 3、挨拶程度 4、ほとんど関わることがない
---	-----------------------	---

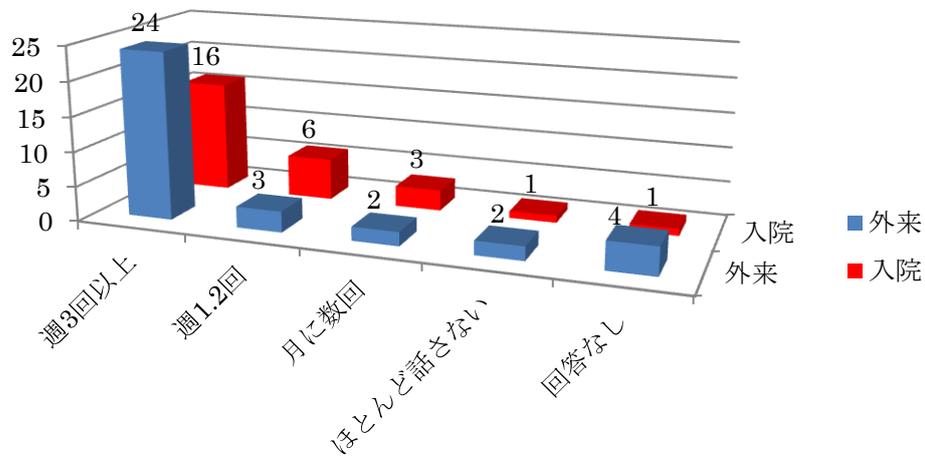




近所とのかかわりについては、全体の15%がほとんどかかわることが無いと回答した。とくに救急外来から入院した群で、その傾向が強かった。

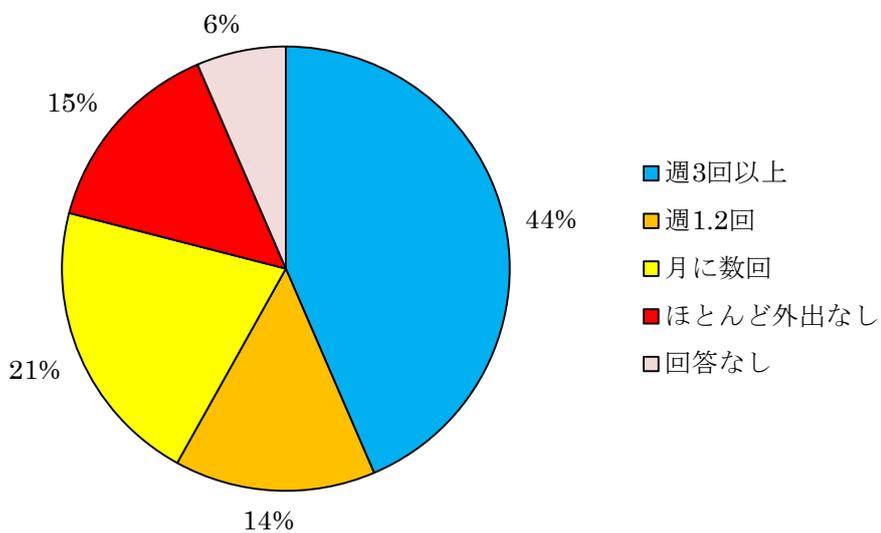
5	日ごろ、誰かとお話をされることがありますか。	1、週3回以上誰かと話す 2、週に1、2回くらい話す 3、月に数回くらい話す 4、ほとんど話さない
---	------------------------	--

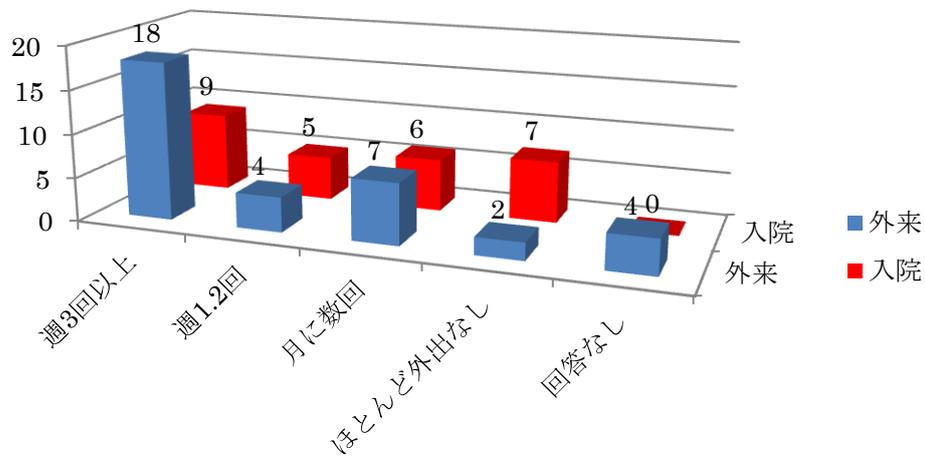




他者との会話の頻度は、外来・入院群で有意な差は認められなかった。

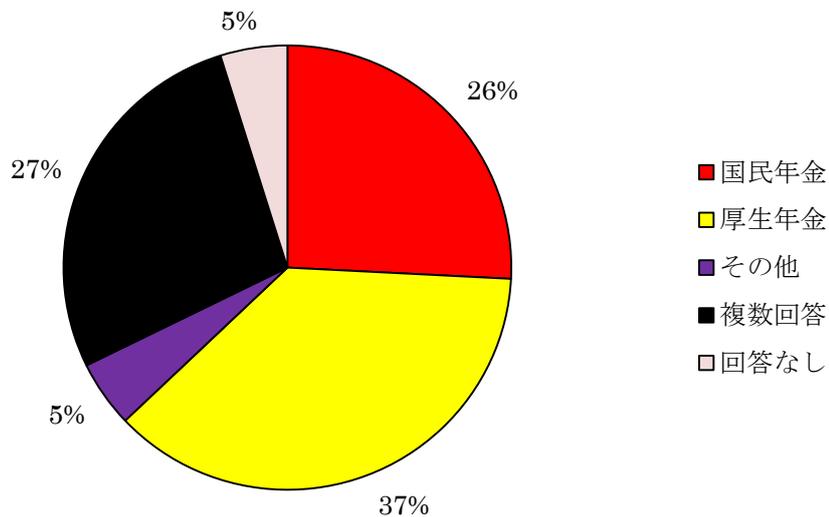
6	生活のために必要な外出される頻度についてお聞かせください。	1、週3回以上 2、週1、2回 3、月に数回 4、ほとんど外出しない
---	-------------------------------	--

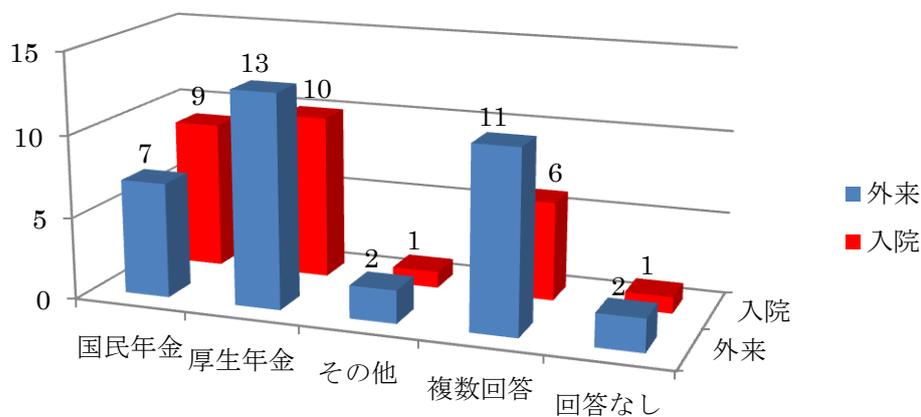




外出の頻度については、全体の15%がほとんど外出しないと回答した。とくに救急外来から入院した群で、その傾向が強かった。

10	あなたの収入は年金のみですか。	1、国民年金 2、厚生年金 3、その他の収入あり
----	-----------------	--------------------------------





収入に関しては、63%が国民年金・厚生年金受給者であった。外来・入院群では、有意な差は認められなかった。

【考察】

今回の調査の対象となった島根県出雲市は、65歳以上人口が44,273人で、高齢化率は25.2%となっており、約4人に1人が高齢者となっている。とくに一部の地域（佐田地域・多岐地域・大社地域）では、高齢化率は、既に30%を超えている。また出雲市にある救命救急センターは、島根大学医学部附属病院と島根県立中央病院の2施設のみである。このため1つの医療機関での検討とはいえ、この調査の結果は、高齢化率の高い地方都市における休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景に関するサンプル調査としての意義もあるものと考えられる。

結果について、救急外来受診に際し、家族・親族に相談した方が対象者の半数以上であったことは、対象者の53%が子供家族と同居生活をしていること因果関係があると考えられ、逆に対象者の8%が独り暮らしと少なかったこととも合致する。これに関しては、出雲地域の独り暮らしの高齢者数は3,171人（平成23年度9月末）で、全高齢者数の内の15.3%を占めるとされており、この結果からは独り暮らしの高齢者が必ずしも休日・夜間に救急外来を受診するわけではない可能性が考えられた。

来院方法としては、救急外来受診を経て入院となった高齢患者の96%が救急車もしくはタクシーでの受診であった。また救急車で搬送され、入院した患者の50%は、介護認定を受けていた。このことより、本研究の対象者に関しては、病院前の段階で、緊急度の判断が比較的正しくなされていたものと予想された。

また、介護体制に関しては、対象となった救急外来受診した高齢患者の半数以上が介護保険認定を受けていなかった。しかし、救急外来受診後、入院した対象患者群は、その後帰宅した患者群に比べ、介護保険認定を受けている方が多く、外出の頻度については、“ほとんど外出しない”と回答した数が多く、さらに近所とのかかわりについても、“ほとんどかかわることが無い”と回答した数が多かった。これは、救急外来受診後、入院した対象患者群がすでにADLが低かった可能性もしくは、うまく地域コミュニティに入れていなかった可能性が示唆されるが、実証は困難である。

【研究の限界】

今回の調査結果は、1年間のみ1つの地域、1つの医療機関の救急外来に限定した調査である。時間的な限界およびアンケート形式での調査ということもあり、対象数も多いものではなかった。そのため、当初、目的のひとつとしていた、対象患者が適切な介護・医療サービスが付与されていない場合および介護・医療サービスの変更により今後の医療ニーズの改善が期待される場合は、医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに連絡を行い、適切な介護サービスに変更いただくことと、そのような対象患者が、救急搬送された該当した場合は、担当した救急救命士にフィードバックを行うことにしていたが、残念ながら上記に該当する対象者はいなかった。今後、この調査研究を継続することができれば、上記に該当する対象患者について、適切な介護サービスに変更や担当した救急救命士にフィードバックができるものと思われる。

また、今回は、救急外来受診の契機となる疾病およびその重症度・加療・入院期間・転帰も含めては、検討できておらず、今後の調査には、これらを含んだ検討も必要かと考えられる。

【終わりに】

地域性の違いにより、結果は異なる可能性はあるが、高齢化の進む地方都市における休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景に関して調査をおこなった。アンケート形式であるため、調査対象数も多いものではなかったが、夜間・休日に救急外来を受診した高齢患者について、ある程度の生活背景・社会的背景を抽出することはできた。同様の調査研究が都市部での救急外来でおこなうことができれば、地方都市での救急外来との比較という意味でも興味深い研究となるのではないかと思われる。

【謝辞】

本研究に御同意いただき、アンケートに御回答いただいた患者様および御家族に感謝申し上げます。

本研究は（一財）救急振興財団の「救急に関する調査研究事業助成」を受けて行ったものである

別記様式第1号（第8条第1項関係）

人間を対象とする医学の研究及び臨床応用申請書

平成25年04月30日(提出)

島根大学医学部長 殿

申請者(研究等責任者)

所属・職名 救命救急センター 助教

氏 名 門田 勝彦 印

Katsuhiko Kadota M.D.

Emergency Medical Care Center, Assistant Professor

1 課題名

休日・夜間に救急外来を受診する高齢者の介護度・介護支援体制・生活状況・家族背景に関する調査研究

(英文) Analysis and management of the problems of the elderly patients consult the emergency unit on the night and a holiday.

2 研究等分担者

所 属 ・ 職 名	氏 名
島根大学医学部救急医学・教授	橋口 尚幸
島根大学医学部附属病院救命救急センター・助教	玉川 祐司
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師長	永田 節子
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護副師長	原 久子
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	原 郁子
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	遠藤 篤也
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	森山 詠美子
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	勝部 真沙美
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	日高 美奈

島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	山根...真美
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	渡部...高史
島根大学医学部附属病院救命救急センター病棟看護師	小村...悠太
救命救急センター病棟看護師	森山...麻美
地域医療連携センター・MSW	太田...桂子

3 研究等を行う具体的な場所

島根大学医学部附属病院救命救急センター

4 研究等の概要(目的, 方法, 意義, 国内外の研究状況, 学会等の見解及び実施期間を明記し, 実施計画書及び参考資料を添付すること。)

【意義】

適切な介護・医療サービスが付与されることにより、高齢救急外来受診患者数の増加を未然に防ぎえる可能性がある。

【目的】

平成 22 年社会保障審議会介護保険部会において、医療ニーズの高い要介護者が安心して在宅生活を送ることが出来るよう、緊急時に迅速に対応できる仕組みを検討する必要性について提言がされている。その一方で休日・夜間に救急外来を頻回に受診・搬送される高齢者が多く存在している。その一部には訪問看護を含め適切な介護・医療サービスが付与されていない可能性や老老介護や独居などの生活状況も関わっている可能性がある。本研究は、日本有数の高齢化県である島根県において、適切な介護・医療サービスが付与されることにより未然に防ぎ得る高齢救急外来受診患者の実態を調査解明することが目的である。

【対象および方法】

<対象>

研究期間内に島根大学医学部救命救急センターを受診・搬送された高齢患者（65 歳以上）およびその家族

<方法>

- ④ 上記対象に御同意をいただいた上で、発症から受診までの時間、緊急度（トリアージレベル）、傷病発症前のADL、認知症の有無・重症度、傷病発症前の要介護・要支援認定の有無、実際の介護・医療サービスの介入の形態、かかりつけ医の有無、家族構成、生活形態、主介護者が誰であるかについてインタビューを行い、その内容をデータベース化する。
- ⑤ 受診した高齢患者が軽症であった場合で、適切な介護・医療サービスが付与されていない場合および介護・医療サービスの変更により今後の医療ニーズの改善が期待される場合は、医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに連絡を行い、適切な介護サービスに変更していただく。
- ⑥ 受診した高齢患者に入院加療が必要な場合は、入院日より退院支援を開始し、医療ソーシャル・ワーカーから担当ケアマネージャーに情報伝達をした上で在宅復帰への介護サービスの計画を立案する。
- ⑦ 救急搬送された対象者の内、②または③に該当した場合は、担当した救急救命士(出雲消防署など)にフィードバックを行う。

研究期間内に①-③を実施し、そのデータを解析・検討し、どの社会的なファクターが適切な介護・医療サービスにより改善できうるか、実際の介入によりその後の救急外来の受診・搬送を抑制できたかを解析・検証する。

<意義>

適切な介護・医療サービスが付与されることにより未然に防ぎ得る高齢救急外来受診患者の実態を調査解明し、また適切な介入によりその後の救急外来の受診・搬送を抑制できる可能性がある。また上記は厚生労働省社会保障審議会で提唱・計画されている地域包括ケアシステムにおける医療との連携強化の一端を担えるものと考えられる。

<実施期間>

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 10 日までとする。

5 研究等における倫理的配慮について（ヘルシンキ宣言の趣旨を尊重し、特に下記の点を含めて、いかに医の倫理に則った配慮をしているかについて説明すること。）

(1) 研究等の対象となる者の尊厳と人権の擁護

研究協力を得るにあたっては、研究等分担者による研究の説明を行い、十分な理解の上での自発的な同意が得られた研究協力者のみを対象とする。研究に必要な個人情報については、研究協力者の同意につながる個人情報ははずした上で用いる。

(2) 研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法（別記様式第 9 号及び別記様式第 10 号に従い、説明文書及び同意文書を作成し添付すること。）

別紙説明文に基づいて研究等分担者が研究の概要について説明を行い、本人・家族の自発的な協力が得られた方に、別紙同意書に署名をいただく。

(3) 研究等の対象となる者の安全性の確保、不測の事態が発生した場合の対処法及び医学上の貢献度の予測

身体的に安全性を脅かすことはない。研究に必要な個人情報に関しては、匿名化などを

行い保全に努める必要がある。

【謝礼】

なし

【備考】

本研究は、財団法人救急振興財団「平成 25 年度救急に関する調査研究助成事業」の助成団体に選ばれている。（※別紙参照）